

学校名	壱岐市立田河小学校
授業者	佐藤 雄紀

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「田河の海を知り、守っていこう」

1-2. 学年

4年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

壱岐市、または本校の地域的特性である海洋環境を取り上げる。普段、何気なく目にしている海、そして自分たちにとって身近な海について、体験学習や調べ学習を通して、よさや課題を考えていく。よさや課題に気付く手立てとして、内海湾でのシーカヤック体験や海岸清掃活動を行う。体験を通して気付いたことや疑問に思ったことなどを、学習における中心的な課題として設定し、見通しをもった学習を進めていく。

課題を探究するために、タブレット端末や関連書籍等、自分に合った方法を選ぶようにする。テーマごとにグループを作り、調べ学習を進めながら、分かったことや気付いたことをスライドにまとめていく。海に囲まれた壱岐市とは異なる環境である岐阜県の学校との交流、または SDG s の視点をもって壱岐市内で発表を行う。

外部への発信を通して、改めて自分たちが暮らす地域の海が貴重なものであることに気付かせ、いろいろな方法でこれからも守っていききたい、守らなければならないという思いを高め、実践意欲に結びつけていく。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本単元を設定した理由として、地域性が挙げられる。壱岐は海に囲まれた場所であり、海というものが身近にある。生活のあらゆる場面において、海が存在が大きいと感じる。だからこそ、身近な海について学ぶことが大切だと考えた。

学習を通して、海に関する様々なことを知り、追究していく活動を仕組んでいく。その中で、地域の海に対する愛情や感謝の思いを抱かせ、これからの自らの行動につなげていくことをねらいとする。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

情報活用能力や ICT 機器を活用する力などを調べ学習やまとめの学習で育みたい。また、学習成果を発表する機会を通して、情報発信力も育みたい。

年間を通して、海洋環境や地域住民の方々の方々の思いを知ることで、地域を愛する心や未来に向けて自分たちに出来ることを考える力なども育てていきたい。

1-7. 単元の展開（全22時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
4時間	◎海洋教育について学習を行うことを知る。(1・2) ・外部と連携し、海の現状について興味を高める。 ◎田河の海、内海湾について話を聞く。(3) ・GTを招き、田河と海について話を聞く。 ◎単元全体の目標、学習計画を立てる(4)	【指】：海の現状など海に関するいくつかの疑問を投げかける。 児童の反応を基に、課題に向けて動機付けをさせる。 【評】：海洋環境に関わる諸問題について自分なりの考えを持つようとしている。 【連】：海に関する専門家に話を聞く。 【教】：レジュメ・ワークシート
4時間	◎体験活動①を行う。(5・6・7) ・内海湾でシーカヤック体験を行い、地域の自然に触れる。 ・田河の海に関わる人に話を聞く。 ◎体験活動の振り返りをする。(8) ・気付いたこと、調べたいことなどをまとめる。	【指】：「海洋ゴミ問題」を一つの課題として取り上げ、今後の体験活動につなげていけるようにする。 【評】：地域の海で起きている諸問題に気付き、自分なりの考えを持ち、調べたいことなどを自分の言葉でまとめている。 【連】：地域の海に関わる人 【教】：田河の海に関する資料
5時間	◎海洋ゴミの問題について調べ学習を行う。(9) ・タブレット端末や関連図書を使い、調べる。 ◎体験活動②を行う。(10・11) ・海岸の清掃活動を行う。 ◎体験活動の振り返りをする。(12・13) ・気付いたことなどをまとめ、調べたいテーマを決める。	【指】：児童の感想や気づきを取り上げ、課題の設定につなげていけるようにする。調べ学習の進め方。 【評】：二度の体験活動を基に、自分なりの課題が設定できている。知りたい情報に合った調べ方ができている。 【連】：地域の方々 【教】：海洋教育に関連する図書、タブレット端末等
3時間	◎発表する内容を整理する。発表に必要な情報を集める。(14) ・発表内容を決める。調べ学習を進める。 ◎プレゼン資料の作成をする。(15・16) ・テーマごとに資料の作成を進めていく。	【指】：情報の集め方や整理の仕方。スライドの作り方。 【評】：伝える内容に応じて、情報の整理が出来ている。相手意識をもちながら、資料作りを工夫している。 【連】：特になし 【教】：Google スライド
4時間	◎校内プレゼンを行う。(17・18) ・発表後、受けたアドバイスを基に修正を行う。 ◎外部に向けたプレゼンを行う。(19) ・岐阜県の小学校とリモートでつなぐ。 ◎前時の発表の振り返りをする。(20) ・明確な振り返りの視点をもたせる。	【指】：相手意識をもった、発表の仕方の工夫。振り返る際に、明確な視点をもたせる。 【評】：相手意識をもちながら、発表が出来ている。振り返ることで、自身の学びを深めている。 【連】：岐阜県の小学校(根尾学園) 【教】：遠隔授業アプリ
2時間	◎単元のまとめをする(21・22) ・これまでの学びを振り返る。お世話になった方々にお礼の手紙を書く。 ・学んだことを、自分事として捉え、これからの実践的な行動につなげていく。	【指】：お世話になった方々へ伝えたいことを考えさせる。自分たちに出来ることを、改めて考えさせる。 【評】：海洋教育で学んだことを自分事として考え、社会に参画しようという思いを強めている。 【連】：特になし 【教】：これまでの学びを振り返る資料など

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- 地域内の海岸で清掃活動を行うことで、海が汚れてきていることや海にごみが捨てられているなどの海洋環境の問題に気付くことができる。
- 地域の方々の海への思いに触れることで、自分たちの地域や海への思いを高める。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 地域の方々と共に海岸清掃活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全指導も併せて行う。 ・海岸を歩き、いろいろなごみを見つけ、拾い集めていく。 	<p>【指・支】：さまざまなごみの種類が落ちていることに目を向けさせる。</p> <p>【評】：活動の目的を理解し、進んで活動に参加している。（観察）</p>
<p>2 集めたごみを種類ごとに分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・袋を準備し、集めたごみの仕分けを行っていく。 ・分けていく過程で、ごみの量や種類などに目を向けながら、作業を進めていく。 	<p>【指・支】：安全に分別活動が行えるように声掛けをする。集めたごみに関する気づきをもてるように声掛けをする。児童の良いつぶやきなどを取り上げる。</p> <p>【評】：進んで活動に参加している。集めたごみに関する気づきを発言している。（観察）</p>
<p>3 地域の方々の思いを聞く。疑問に思ったことを尋ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の老岐の海に対する思いを聞く。 ・海洋ごみに関する話を聞く。 ・ごみ拾いをして疑問に思ったことや話を聞いて疑問に思ったことを尋ねる。 	<p>【指・支】：疑問や気づきをもてるように、視点をもって聞くようにさせる。話の内容について補足説明を加える。</p> <p>【評】：活動に積極的に参加をし、海洋環境の問題に気付くことができる。地域の方々の思いに触れたことで、自分たちの地域への思いを高めている。（観察）</p>

3. 今回の活動の自己評価

本校で初めて実践を行う学習だったので、うまく見通しをもてなかったり、計画的に進めなかったりしたところがあった。しかしながら、地域の海を題材として扱ったので、4年児童の心の中にある郷土を愛する感情を育てることができたのは間違いないと感じた。また、地域の方々や海に関する専門家の方々のご尽力もあり、貴重な体験を多く行うこともできた。実際に、体験活動中の児童の様子は、とても活発であり、一人一人のふり返りからも学習の深まりを感じ取ることができた。

授業者自身も、外部の方々との学習内容の打ち合わせや児童の学習の様子から、多くのことを感じ、海洋環境に関する知識を増やすことができた。また、学びを発信する活動を通して、ICT等の情報機器に関する知識やスキルを伸ばすこともできた。それは児童も同様で、タブレットを使い、学びをまとめる力や整理する力、そして伝える力の伸びを、単元全体の学習を通して感じ取ることができた。

今後は、児童の中に芽生えた地域への愛着をどのように行動に移していくのかということや、今年度の学びをどのような形で本校の財産にしていき、受け継いでいくのかということを考えていきたい。

壱岐の地に来て、海に関して学べたことは、本当に有意義であった。活動を通して、育みたい資質や能力も、児童の様子から感じ取ることができた。

4. 今後の課題

成果の多い学習であった。課題としては、以下のことが考えられる。

- ・先を見据えながら、学習の計画を綿密に組んでいくこと。
- ・学び深めたことを、どのように児童自身の生活と結びつけていくかということ。
- ・学び深めたことを、どのように学校全体で共有していくのかということ。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

児童が、海洋環境について興味・関心を抱かせるために、単元の導入部分をはじめ、各種体験活動ではゲストティーチャーの活用が望ましい。また、シーカヤック体験など海を身近に感じることができる体験活動も有意義であったので、計画をした方が良い。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。